

平成30年度 学校評価実施報告書

学校名(京都市立桂中学校)

教育目標	
「『確かな学力』『温かな心』『たくましさ』を兼ね備えた生徒の育成」	
年度末の最終評価	
自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <p>実現に向けての基本的な姿勢の定着を図り、ある程度の成果は維持できている。授業時間を大切にする意識を持たせ、授業に集中させている。また、生徒会活動やボランティア活動、道徳教育を通して、他者や弱者を思いやれる優しさや他者を認め受け入れる姿勢を育み、人の刺激を受けて自分を成長させるように取り組みを進めたが、まだまだ不十分である。主体的に学習に取り組む態度の育成にも課題が残る。H31年度は家庭学習（課題）と授業とのリンクを通して自学自習と反転学習の定着をめざす。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>生徒アンケート・保護者アンケートの結果を見ていると学力向上や家庭学習のことに関心が強いことがわかるし、それだけでなく、高い学力を有していることも見て取れる。また、仲間を大切にすることや、良いところを見つけることなど、他者や弱者を思いやれる優しさや他者を認めるとといった部分も持っていることがわかる。地域としても大変喜ばしいことである。</p>

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	11月3日	学校運営協議会
最終評価	3月12日	学校運営協議会

(1) 「確かな学力」の育成に向けて『学力向上プラン』

重点目標	
学ぶ意欲を高め、学力向上を目指した学習指導を行い、一人一人の人権を大切にし、豊かな感性を身につけさせるとともに、生き方を考えさせる進路指導を推進する。	
学ぶことの喜びやおもしろさ・楽しさが感じられる授業を目指す	
具体的な取組	
<p>1. 昨年度に引き続き学校図書館教育の「学習センター機能」を高め、全学年各教科・領域で学校図書館を活用した授業を最低1回は実施する。また、情報メディアセンターとしての活用と充実を図る。</p> <p>2. 生徒の思考・判断・表現力と課題解決型・探究型能力を身に付けさせられる授業改善のための校内研修会を実施する。</p> <p>3. 人権尊重を徹底し、道徳教育を充実させ、生き方を考えた進路指導を行う。</p> <p>4. すべての教員に担当教科の総教Cを中心にした「指導力向上講座」や「夏季研修会」等の教科研修に年間1回は必ず参加することを意識付ける。</p> <p>5. 学習確認プログラムの意義を十分に生徒に理解させ、計画に基づいた学習活動の重要性を学級単位で説明するとともに、学校で予習シート学習を徹底して行う。</p>	

6. 授業開始時の学習のねらいについてはほぼ定着してきているが、終了時のまとめとふりかえりがまだ不十分であるため、教員にそのことを徹底させていく。そのために職員会議や校内研修会で繰り返し意識付けをするとともに、校内巡視・授業観察を行い、現状の実態を把握し、個別に指導していく。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・アンケート項目の教科の授業は（全体的に）わかりやすかった。（特にわかりやすかった教科、わかりにくかった教科は。）
- ・学習確認プログラムの経年データ
- ・あなたにとって朝読書は役に立っていますか？（図書館教育推進委員会の考察）
- ・あなたは家庭学習を頑張っていますか？（子どもたちは家庭学習をよく行っている。）

中間評価

各種指標結果

- ・アンケート結果から、教科の授業はわかりやすかったやどちらかといえばわかりやすかったと答えていた生徒が9割以上いた。教科分析では、体育以外の実技教科で困りを感じている生徒の割合が高いことがわかった。5教科では、2年生の英語でわかりやすいと答えている生徒もたくさんいる反面、分かりにくいと答えている生徒もたくさんいることがわかった。
- ・学習確認プログラムの結果は、各担当教員で分析を行っているが、1年生の入学当初のスタートは、学習面に意欲を見せるような結果でスタートしている。2年生は、昨年に比べ学習意欲が低下している傾向が見られる。3年生は、昨年に比べ前向きに取り組んでいる姿勢がみられる。
- ・朝読書の取組は、全校で定着してきている。8割を超える生徒が、朝読書が役になっていると思っている。
- ・家庭学習は、生徒自身は約7割が出来ていると思っている。しかし、保護者の反応としては子どもが家庭学習を行っていると思っているのは、5割以下であった。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・アンケート結果から、授業に対して高評価を得ている部分もあるが、どちらかといえばわかりやすいという答えが大半を占めている。どの教科においても、授業改善が必要なことが伺える。
- ・学習確認プログラムの予習シートの活用は、テスト前に徹底してできている。しかし、テスト後の分析を踏まえた復習シートの活用に課題が残る。
- ・朝読書は、全校で共通認識のもとに取り組めている。しかし、移動教室や始まりの不徹底など、各クラスにバラツキがあるので、しっかり時間の確保をするのが課題である。
- ・各学年、家庭学習は工夫しながら行っている。しかし、家庭学習が学力向上にどこまで関連しているかを分析できていない。

分析を踏まえた取組の改善

- ・授業改善（教科内・教科間授業観察）
- ・学習確認プログラムの各教科結果分析
- ・朝読書の始まりの時間の徹底（全校）
- ・家庭学習課題の徹底（学年別）

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・授業内容に関するアンケート確認と各教科振り返りアンケート（1年間の振り返り）確認
- ・学習確認プログラムの各教科データ分析
- ・朝読書に関するアンケート項目の確認

	<p>・家庭学習アンケート（本人と保護者）</p>
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>授業参観や学校行事などで様子を見ていると、学校全体が本当に落ち着いて学習している様子がうかがえる。学校の様子は、実際に足を運んで学校の中に入って、見て、感じてもらうのが一番正確である。うわさを信じるのではなく、自分の目で確かめるよう、学校行事に足を運ぶよう地域住民にも働きかけたい。</p>

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <p>生徒評価「授業はわかりやすい」の回答は前年度後期比較で約2%下がった。GKPは3年生は前年比でかなりの伸びを見せたが、2年生については逆に下がっている。朝読書の効果については全体は前年比で約3%下がっている。図書館授業は現在も推進中だが、今年度リニューアル工事のため思うように進まなかつた。家庭学習の頑張り度の生徒評価は3年生で約78%，2年生で約61%とそれぞれ前年比約9%，5%upしている。しかし、保護者の評価は約50%程度と意識の差はかなりある。</p>
自己 評 価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>全国学力・学習状況調査や確プロの結果からも本校生徒の学力は比較的高い部類に入るが、確プロの経年変化を見ても校内の取組が一定その効果を上げていると考える。家庭学習については、効果は認められるが、全国比で休日に勉強をしない生徒の率が高く、また、生徒自身と保護者との意識には大きな差がある。ほぼ毎日放課後図書館を開館することにより、常時自学自習ができる環境づくりを行い、ほんの少しずつ定着してきた。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>取組の結果、わかりやすいとする率は全体で約88%であるが、前年比では約3%下がっている。また、教科別で見ると突出して低い教科もあり、個別の指導を必要とする。また、「ねらい」の明示はほぼ達成できているので、今後は「まとめ」の時間確保に注力していきたい。また、家庭学習の中の週末課題については、与える量や内容を工夫したい。課題を与え、家庭学習を行うことと授業を関連付けるいわゆる反転学習の推進を継続したい。図書館教育についてはある程度、定着しているが、リニューアル工事の関係で若干後退したことは否めない。来年度、復活させたい。</p>
	<p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>学力向上については、家庭の教育力もありある程度定着している。豊かな感性を身につけさせるとともに、生き方を考えさせる進路指導を推進するためには、教職員の方がさらに研修を積む必要を感じるので、来年度の課題としていきたい。学ぶことの喜びやおもしろさ・楽しさが感じられる授業を目指すという目標も継続したい。</p>
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>授業参観などで様子を見ているが、どの学年も本当に落ち着いて学習している様子がうかがえる。家庭学習の点ではどうしても「もっと勉強してほしい」という親の思いが強く、子どもの「」とのギャップが出るのだろう。今の様子を見ていると頑張っている子がほとんどだと感じる。様々なうわさを信じるのではなく、自分の目で確かめるのが一番確かである。学校行事に足を運ぶよう地域住民に働きかける。</p>

（2）「豊かな心」の育成に向けて

	<p>重点目標</p> <p>規範意識を軸として、心温かな優しい気持ちを持ち続けられるよう、日々教育活動の中で意識する。</p>
--	---

具体的な取組

- 生徒会活動をさらに充実させる。また生徒会東北プロジェクト（福島ひまわりプロジェクト）を継続していくことにより、支え高め合う集団づくりを学級・学年・学校単位に拡大する。また、生徒会活動を通して自治活動の浸透と拡大を図り、自ら考え行動する姿勢を養う。
- 規範意識や豊かな心を育てるため、道徳の時間を中心に道徳教育を進める。道徳推進教師を中心にして「考える道徳・話し合う道徳」の授業を全校的に広げていく。なお、今年度も引き続き教科化に向けて評価の研究を進める。
- 生徒、教職員の4つの行動目標（あいさつ、感謝、時間、ボランティア）遵守を全員で達成する。
- 道徳や特別活動（学級経営、生徒会活動、学校行事）の中に、意図的計画的に「記録、発表、傾聴、意見交流、まとめ」など言語活動を重視した教育活動を実施し、それを道徳の「考える道徳・話し合う道徳」に結び付けられるようにする。そして、人間としてのより良い生き方を探求する力を身につけさせる。

(取組結果を検証する) 各種指標

- 道徳の授業実施時間数、事後感想文や日常観察より考察
- アンケート項目の、仲間の良いところを見つけようと努力した。仲間を大切にした。学校・学年行事は楽しかったか。楽しみにしている行事は何ですか。等
- 行事等の事後アンケートより考察。
- 道徳推進係会にて検証。 等

中間評価

各種指標結果

仲間の良いところを「見つけようとした」・「大切にした」は、共に肯定的な回答がH29同時期比較でほぼ横ばいか若干上昇、それぞれ約93%。約98%と高い。

全校道徳2回実施。時数も充足している。

自己評価

分析（成果と課題）

道徳の時間も全体として意識されている。また、日頃の行動目標実践も呼びかけがなくともほぼ定着している。東北支援・ひまわりプロジェクトにも多くの生徒が参加している。

分析を踏まえた取組の改善

道徳の時間の丁寧な事前準備を心掛ける。生徒会活動では、さまざまな考えが聞けた。一昨年の熊本地震の募金活動やそれ以前からの取り組みも受け継ぎひまわりプロジェクトが今年も実施されたが、生徒会からの呼びかけに対し参加者も多い。生徒会の活動から学年単位での取り組みへ徐々に移行できれば、子どもたちや教職員の意識もさらに高まるのではないか。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- 道徳の授業実施時間数、事後感想文や日常観察より考察
- アンケート項目の、仲間の良いところを見つけようと努力した。仲間を大切にした。学校・学年行事は楽しかったか。楽しみにしている行事は何ですか。等
- 行事等の事後アンケートより考察。
- 道徳推進係会にて検証。 等

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	体育大会や文化祭の発表などは非常に素晴らしい。これは先生方の努力が形になって出てきているのだと思う。部活動を中心として、地域の清掃活動などもしてくれている。地域の大人がいつも見ているのだということを子どもたちに感じさせるため、積極的に声かけするよう、地域にも呼び掛けていく。
最終評価	
中間評価時に設定した各種指標結果	
	生徒評価は前年後期比較でいずれも大きな変化はないが「良いところを見つけようとした」は90%を超え、「仲間を大切にした」は95%を超えている。全校道徳や学年道徳も実施し、道徳自体の時数も充足している。
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>道徳の時間も全体として意識されており、また、日頃の行動目標実践の呼びかけも定着し、効果が表れている。学校行事の取組を通して、集団に対する意識やその中の自己認識の高まりが感じられる。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>道徳の時間の丁寧な事前準備を心掛ける。生徒会活動・学校行事では、さまざまな考えが聞けた。生徒会企画のひまわりプロジェクトの様な取り組みに対しての呼びかけへも自発的な参加者は多い。</p> <p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>地域と家庭の教育力のおかげもあり、規範意識や心温かな優しい気持ちを持つことも達成できていると思われる。むしろ来年度は我々教職員の方が「あいさつ」や「時間」を意識するように心がけたい。教職員が変われば、子どもも変わってくると思われる</p>
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	体育大会や文化祭の発表などは素晴らしいものである。この姿は教職員の努力が形になって出てきたものではないかと思う。また登下校時も含め、子どもたちはよく挨拶をしてくれるようになってきている。学校行事などに参加して中学校との交流を持つことも大切にしたい。7~8年前と比べ本当に落ち着いている。積極的に声かけするよう、地域にも呼び掛けていきたい。

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

重点目標
学校教育目標にある心身と心の「たくましさ」を身に付けられる活動の推進
具体的な取組
<ol style="list-style-type: none"> 運動やスポーツなどの部活動において、規範意識を高めるとともに、体力的・精神的にたくましい生徒を育てるために、組織的・計画的な部活動を、ガイドラインに則って推進する。ただし部活動はあくまでも副次的なものであり、本校の優先順位は「学力向上」と「温かな心」の育成である。 毎朝遅刻ゼロを目指して各家庭に協力を求めるとともに、「中学生版早寝・早起き・朝ごはん」を引き続き実践する。 「いのち」の大切さを知り、また、いざというときに何かの役にたてる人材を育てるために、昨年度に引き続き「救命救急講習」を3年生保健授業で3時間実施し、そのうち2時間は西京消防署と協力して、すべての3年生に「救命救急講習（AEDと心肺蘇生講習）」を実施する。 1・17や3・11の節目の日に防災に関する学習を行うとともに、避難訓練や防犯訓練も実施す

	<p>る中で、「主体的に行動する態度」と「自分のいのちは自分で守る行動」について体験的に学習させる。</p> <p>5. 夏前には「落雷」「熱中症」「食中毒」等の未然防止のため教職員はもとより、生徒にもこれらの安全意識を高めるための学習を実施する。</p> <p>6. 京都はぐくみ憲章の啓発のため、学校だよりとHPにて広く保護者・地域住民にアピールしていく (取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常観察より考察 ・保健室だより、保健委員会新聞の発行回数 ・各種大会の競技成績 等
--	--

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <p>保健だより、保健委員会新聞とともに、月1回を基本に発行されている。月1回実施の振り返りシートの記入。メモリアルロードの掲示物に表れている通り、昨年より若干減少したものの、比較的に好成績を上げている。</p>
自己評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <p>生活習慣の確立と直結する「遅刻」は、ほとんどない。保健衛生関係の啓発活動も行っている。部活動では、リーダー育成と情報発信を積極的に行うことで盛り上がりを見せていている。また、今年度より、運動部活動ガイドラインの徹底により、昨年度よりも子どもたちへの負担は軽減されている。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>PTAや地生連と連携する中で保護者の協力や家庭教育力を高めていく。部活動は勝利至上主義に走るのではなく、人間形成・健やかな心身の成長に重きを置くことを心掛ける。</p>
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常観察より考察 ・保健室だより、保健委員会新聞の発行回数 ・各種大会の競技成績 等
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>基本的な生活習慣は家庭教育に占める割合が多大である。朝、子どもをどのように送り出しているのだろうか、という地域の声もある。また、保護者自身が困りをもっている場合に、相談できるような地域のサポート体制が必要ではないかと思う。</p>

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <p>保健室だより、保健委員会新聞とも月1回を基本に発行。中学校駅伝の市・府・近畿大会すべて男女とも好成績をあげ、全国での男女同時優勝、女子5連覇などのHPや校門の掲示物による刺激は大きいと考える。</p>
自己評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <p>部活動の生徒の自主的、主体的な活動を基本として活動させているが、安全指導と生徒指導上の問題行動の未然防止に力を注いた。顧問は月行事予定を生徒家庭に配布し、校外活動届も遵守させた。陸上部駅伝チームをはじめ、サッカーチーム、野球部、剣道部、水泳部、吹奏楽部等が全市上位入</p>

	<p>賞を果たしているが、決して部活動優先とならないよう、休養と学習の必要性についても認識させている。</p> <p>生活習慣の確立と直結する「遅刻」はほぼ解消されているが、昨年度より、わずかに出てきたように思われる。保健委員会では保健衛生関係の啓発活動や冬場の換気の呼びかけなども行っており、インフルエンザでの学級閉鎖等は防げた。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>P T Aや地生連との連携の中で保護者の協力を促し、家庭の教育力を高めていく。部活動は勝利至上を求めず、人間形成に重きを置くことを心掛けてきたが、今年度より部活動ガイドラインが導入され、活動日数や活動時間については本校として遵守して活動している。</p>
	<p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>概ね目標達成はできていると思われるが、保健衛生関係の啓発活動や冬場の換気の呼びかけなど今後そういった取り組みを子どもたちの主体的な動きに移していきたい。部活動ガイドラインもあり、活動日数や時間は遵守できているが、他校ではどうなのか？本校教職員に不満が出ないよう、他校にもガイドライン遵守を広めていきたい。</p>
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>ほとんどの家庭はしっかりとっているが、基本的な生活習慣は本来、家庭教育の問題である。とは言え、様々な環境、背景の子どもたちがいるのも事実である。また、保護者自身が困りをもつている場合、相談できるような地域のサポート体制が必要ではないか。</p>

(4) 学校独自の取組

	<p>重点目標</p> <p>「桂中ブロック内4校のすべての教職員が、義務教育9年間の成長に責任をもつ」</p>
	<p>具体的な取組</p> <p>○桂中ブロック4校校長会議 年間3回（5月・9月・3月）開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月⇒目標・年間方針・計画の確認、H29年度卒業生の進路状況の報告（出身小学校別進路先データの提供）、4校学校行事と地域行事の確認、小中一貫の各種研修会、研究授業のあり方等 ・9月⇒夏季研修の課題、生徒の現状報告、小中合同授業研究会に向けて、全国学力学習状況調査分析の情報共有と小中合同の課題について <p>○桂中ブロック小中各主任交流会開催（年間3回）</p> <p>○小中一貫学校経営構想プランに基づいた教育活動の推進</p>
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中連携主任会による考察 ・各種活動への参加数 ・P T A役員会等の考察 ・ホームページのアクセス数 ・学校の教育方針や教育活動などが学校だより・学級通信・HP 等
	<p>中間評価</p>

	<p>各種指標結果</p> <p>小学校と中学校の合同の取組の実施回数と内容にはまだまだ改善の余地がある。クリーンキャンペーン、落ち葉ひろいなどPTA・教職員・生徒での共同活動はまづまづできている。学校HPへのアクセス数は、一日平均300～400。多い日は1000件程度になることもある。学校だより（天鼓の森）の配布総数約1500。</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>小中一貫教育は、さまざまな形での体制はできており、主任クラスの連携はある程度とれている。各校の行事等の事情で実際に人的交流ができる場面は限られている。環境・美化活動では、PTAの協力を求めているが、学校規模からすると参加者は若干少ない感じであったが、昨年度からはPTAからの呼びかけもあり、少しは増えたようである。情報発信は、管理職を中心にホームページの更新・学校便り（天鼓の森）の発行など、積極的に行っている。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>小中一貫教育に教職員の相互交流は必要だが、内容・実現方法は、さらに検討が必要。環境・美化活動は、生徒の意識を高め、学校全体として、また、地域や小学校とも合同で取り組めるものを作っていく。HPや学校便りは、画像、図、テキストなどを工夫し、さらに伝わりやすいものを目指す。</p>
学校関係者評価	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中連携主任会による考察 ・各種活動への参加数 ・PTA役員会等の考察 ・ホームページのアクセス数 ・学校の教育方針や教育活動などが学校だより・学級通信・HP 等 <p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>PTAの方は緊急時対応として携帯メール配信をしているようだが、そういった情報が地域の者にも情報が入った方がよいのではないか。防災の観点からも地生連のメンバーは登録して協力体制が取れるようにしたい。地域としても青パトなどで随時重点箇所を巡回している。</p>

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <p>小中合同の取組回数と内容はなかなか増やすことができない。クリーンキャンペーン、落ち葉ひろいなどの生徒との共同活動について、例年通り実施できている。HPへのアクセス数は一日平均300～400。学校だより「天鼓の森」は配布総数1500。</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>小中一貫教育は、さまざまな形での体制はできているが、各校の行事等の事情で実際に人的交流ができる場面が少ない。環境・美化活動では、PTAの協力を得て、昨年から保護者の参加はかなり増えたが、今年度は悪天候で1回が中止となったのが残念だった。情報発信は、管理職を中心にホームページの更新・学校便り「天鼓の森」の発行など、積極的に行っている。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>小中一貫教育に教職員の相互交流も必要だが、内容について・どのように実現するのかは各パートごとに検討が必要。環境・美化活動は、生徒の意識を高め、学校全体として取り組めるものを目指す。さらに小学校と合同で地域の清掃活動などが実施できないか検討中。HPや学校便り</p>

	<p>は、画像、図、テキストなどを工夫し、さらに伝わりやすいものをめざす。</p>
	<p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>桂中ブロック4校での小中一貫教育という点ではまだまだ不十分である。実際には時間的なもの、立地的なもので交流を持つことも困難であるが主任クラスで十分な会議を持ち、各校でしっかりと伝達し落とし込んでいく必要がある。9年間の義務教育に責任を持つのは当然のこと、目の前にいる子どもの10年・20年後を見据えて教育活動を行いたい。</p>
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>PTAの方は連絡方法として携帯メール配信をしているようだが、そういった情報が地域の者にも情報が入った方がよいのではないかという意見もあるが、利用人数による費用のこともあります。防災の観点からも地生連のメンバーは登録して協力体制が取れるようにしたい。青パトなどで随時重点箇所を巡回している。また学校の情報は「天鼓の森」と同様に地域も回覧等で回せるように協力する。</p>